

ハロー フレンズ



ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2018年5月号 (年3回発行) 第147号

「東上線沿線日本語教室ガイド」を改訂しました

このほど2015年に作成した「東上線沿線日本語教室ガイド」の改訂を行いFICECのホームページ上で更新しました。

FICECにも、「日本語を勉強したいが、家に近く、都合のいい時間に勉強できる教室があったら教えてほしい」という外国人が毎日のように訪れますので、この本を参考にして希望にあった教室を紹介しています。

今回は主にホームページ上でのPDFの更新のみとなっておりますが、ご希望の方には500円(税込み・送料別)でお送りしますので、FICECまでご連絡下さい。

なお表記は日本語のみなので、この本を参考にして外国人の方々にご説明お願いします。

日本語教室ガイドはこちらからご覧いただけます。



東上線沿線日本語教室ガイド

<http://www.ficec.jp/tojosen-guide/tojosen-nihongo.html>



FICECの日本語教室
毎週木曜日(祝日は除く)午前10時から12時開催



東上線沿線日本語教室ガイド表紙



第20回通常総会のご案内

開催日時／平成30年5月27日(日)

13時30分から

場 所／上福岡西公民館

[ふじみ野市上福岡5-2-12]

5月27日(日)上福岡西公民館において、富士見市・ふじみ野市・三芳町の首長さんをお迎えして第20回総会を開催いたします。

日頃のFICECの活動を知っていただく機会となるよう、総会では各担当者が平成29年度の事業

について報告いたします。ご支援をいただいている会員のみなさんはもちろん、関心のある方もぜひご出席ください。当日は「FICECを卒業した子どもたちの活躍」の写真展と講演会を予定しています。

総会後は軽食を用意し、親睦会を開催いたしますので引き続きご参加ください。

昨年の総会の様子



高校入学おめでとう 大学入学おめでとう

国際子どもクラブ

新学期が始まりました。今年も国際子どもクラブからは、5人の高校生と1人の大学生が誕生しました。本人達の努力と、応援して下さったボランティアの先生達の熱意に敬意を表します。

前年度は小学生の学習者が増えて、全体では、毎回15名～20名近い生徒が勉強に来ました。9時開始の日程も定着し、シャッターを開けると外で待っている生徒がいることも珍しくなくなりました。小学生は親の送迎が定着し、保護者と顔を合わすことも多くなり、安心して子ども達を預かることが出来ています。

高校合格者5名を代表して

サンチェス リアン

フィリピンの高校に進学するものばかり思っていました。両親に勧められて日本の高校を受ける決心をしました。中学校の授業についていくのはとても大変でした。合格できるとは思わなかったので、合格発表を見た時は、とても嬉しかったです。

高校生になったら、勉強をもっと頑張り、生活も楽しみます。

史 佳夢

中国から来日したばかりの時は、日本語が難しく大変でした。でもだんだん先生の話が分かるようになってきました。テストの問題文が読み取れず正解できないこともありました。

一生懸命受験勉強したので、絶対受かる自信がありました。高校生になったら、苦手な教科をなくすように努力します。



ボランティア紹介

池末ひかり(大学生)

以前から国際交流に興味を抱いており、地元ふじみ野市で活動できるので、国際子どもクラブに参加しようと志しました。普段は塾講師としてアルバイトをしていますが、ここで直面したのは言語という壁。塾のように上手いかず、翻訳機や、ジェスチャーを交えたり、工夫しました。言葉を伝えるのは大変難しいですがその分、話が通じたときは、喜びはとても大きいものです。彼らは言葉の壁を日常的に感じて、苦労な点が多いと思います。

活動していく中で、国際子どもクラブは、彼らの大切な居場所であるのだと感じました。この活

動を通して、言語面のサポートだけでなく、彼らの居場所作りの役に立てばと思います。



「自分を信じて」

張 ピンピン

私は、小学校6年生の時に日本に来ました。全く日本語が話せなかったので、生活の色々な事に困っていました。でも、学校の先生や回りの友達が、やさしく教えたり手伝ったりしてくれたので、本当に嬉しかったです。

毎週1回、中国語が話せる山崎先生や、戸塚先生が日本語を教えてくれました。平仮名片仮名から生活で使う日本語など、だんだん難しくなっていく、勉強する気が無くなってしまいました。

私は暗記するのが得意なので、授業で習った事はすぐに覚えられます。でも、ただ覚えるだけではなく、話すことも大切です。私のように自分から話すことが苦手だと、覚えた日本語はすぐに忘れてしまいます。中学校に上がっても、日本語の理解がなかなか進まない時期がありました。

中学校の生活は小学校と大きく異なりました。日本語の授業は、週1回しかありません。英語以外の教科は理解が難しいため、私の成績は理想と違いました。その上、学校の活動は必ず参加しなくてはなりません。先生や友達の話も理解できなくて、中学校生活はどんどん困難になりました。中学1年生の夏休みから、国際子どもクラブに通い、日本語や学校の勉強を始めました。特に国語は、漢字の読み方が分からなくて、授業の時困るので、いつも予習をするようにしました。このような努力をした結果、漢字検定は、簡単に合格しました。

毎週土曜日の子どもクラブに、行きたくないと思ったこともありました。でも、行った方が少しずつでも進歩すると思い、頑張り続けました。

2年生の時、学校でいじめにあいました。クラスの人が私の悪口を言っている。とてもつらい時期でした。友達もいないし、登校したくない時もありました。私はただ黙って耐え、自分の事に集中するようにしました。3年生になってから、一生懸命受験勉強をしたおかげで、受験した高校すべてに合格しました。そして富士見高校に入学しました。

高校では、特進クラスに入ったので、自分でも驚きました。その時から、もっと優秀になるという目標を設けました。英語部に入り部長になり、生徒会にも参加し、漢字検定や英語検定にも挑戦しました。校外でのボランティア活動、スピーチ大会への出場、三年間の成績優秀賞と皆勤賞等、高校生活を振り返ってみると、楽しいことばかりで、あっという間だったと思います。自分が頑張れば沢山のことが出来るし、その努力もしてきました。大変な過



程だったけれど、結果には大満足でした。

自分が頑張ってきたことをアピールしたかったので、大学受験は公募推薦入試を選びました。テストは、小論文と英語面接です。一番難しかったのが、小論文です。子どもクラブの山畑先生に頼んで、放課後週3回くらい、論文の書き方や読解の勉強をしました。自分の書いた文の論点がずれていたりして、何度も何度も読み直しては書き直し、それを先生が添削し、再度書き直す。こんな練習をしました。

また、先生達と英語面接の練習もしました。その結果、志望大学に合格しました。先生達にはとてもお世話になったと、深く感謝しています。将来は、貿易関係の仕事をしたいので、4月からは大学で、英語の習得を目指して頑張り続けたいと思っています。

ふじみの国際交流センターがあるので、たくさん外国人が助かっています。今後來日する外国人は、増えると言われています。私もボランティアになって、困っている外国人を助けるボランティアをしたいです。



スタッフ紹介

「外国人」であるからこそできるケア 安 銀柱

韓国から来ました、安 銀柱(アン ウンジュ)です。日本での生活は、19年目です。結婚して日本で暮らすまでは、まさか自分が「外国人」になるとは、想像もしていませんでした。出産、育児、友達作り、医療、仕事、教育などを経験しながら、慣れない「異国」での暮らしは、不安と寂しさの連続でした。

「異国」で暮らす私にとって、FICECは、何かあればすぐ行って相談できる、まさに実家のような存在です。

子どもが大きくなり、私にも時間的な余裕がうまれるようになって、FICECでボランティアを以前より参加するようになりました。かつての私のような悩みや不安に直面している「外国人」に対して、「外国人」であるからこそできるケアが出来ればと思います。

今は「国際サロン」を担当しながら、「国際理解」に関する講演をしています。まだまだ経験不足のため、分からない事も多いですが、宜しくお願いします。



「南京、鴨子料理は食べ過ぎに注意！」

江 科 (ジャンクー)

私の出身は中国の南京です。南京への直行便は少ないため、帰省する際に、いつも上海へ行き、それから高速鉄道で一時間半ほどで着きます。

ご存知ですか？14世紀ごろ、南京は世界最大の都市だったともいわれています。南京の歴史は三国志の時代から始まり、三国の呉や六朝・明朝・中華民国の都として栄えました。南京で一番有名な山は「紫金山」です。標高448メートルしかないですが、二つのお墓と天文台と梅の名所でもあります。明朝を作り上げた朱元璋が眠っている「明孝陵」が2003年、世界文化遺産にも登録されました。中華民国の父と呼ばれている孫文の墓である「中山陵」は「明孝陵」の近くにありますが(中国では孫文よりも孫中山の名称が一般的なので、孫文の墓は「中山陵」と呼ばれています)。ちなみに、この標高448メートルの山に、多くの慧星や小惑星を発見したことで有名な紫金山天文台もあります。この天文台は中国人が自力で建てた初めての天文台です。中国では、最大級規模の天文台になります。「明孝陵」周辺の「梅花山」は、

13000株ほどの梅が栽培されており、中国の四大梅園の一つで、梅の名所として全国レベルで有名です。三月下旬になると、毎年のように梅祭りが開催され、多くの人々はこの祭りを見に行きます。

初めて京都に行ったとき、私は思わず故郷の南京を思い出しました。なぜならば、似たような空気を漂わせていました。南京は山や湖などの自然と、古い歴史、近代化が入り交じっています。人々は悠々自適な生活を送り、とてもフレンドリーで気前がいいです。細かいことを気にせず、明るい人が多いです。

食い意地の強い私にとって、一番自慢したいのはアヒル料理です。南京には美味しい食べ物がたくさんあります。その中で、私が一番大好きなのは「塩水鴨」です。アヒルは中国語で「鴨子」(ヤーツ)といいます。南京のアヒル料理は1400年以上の歴史があり、あの有名な「北京ダック」の原型だといわれています。塩漬けたアヒルを茹でて調理された南京の名物料理です。作り方は複雑ではないですが、時間がかかり面倒なので、地元の人でも家で作るより、専門の店で買ったものを買うことが多いです。味付けはとてもシンプルですが、塩加減で素材の美味しさが存分に活かされる絶品料理です。あまりの美味しさでついつい食べ過ぎてしまいます。うちの子ども達も大好きです。ただし、塩分が高いため、高血圧の方は食べすぎ注意ですね。南京へいらっしゃったときには、必ず食べてみてください。



江蘇省南京市



南京名物の塩水鴨

この方もFICECの活動を応援してくださっています

太田政男さん

FICECのみなさんは、もう20数年にわたって外国籍市民の自立支援や国際交流・国際理解の活動をつけてこられました。そのあいだに活動はめざましく広がり、多くの外国籍市民にとっての暮らしと学びの砦になっています。そして近隣自治体はもちろん県の行政にとっても欠くことのできない協働のパートナーとしての役割を發揮しています。

ぼくがFICEC活動に関心を持ち、まったくささやかなことしかしていませんが応援するのは、なんと言っても石井理事長さんをはじめスタッフの方々の「困っている人を助けたい」「人の役に立ちたい」という純粋で献身的な気持ちや姿に打たれるからです。

自由競争と自己責任が叫ばれて、人々は孤立し生きづらい世の中になっていますが、外国籍市民はそのなかでも最も「困っている」人たちでしょう。だからFICECのあり方は、人間の生き方の基本、「相互扶助」という社会のあり方の基本を指し示してくれていると思います。

今、世界では高齢者、子ども・若者、移民など弱者に対する「差別」と「社会的排除」が大きな問題になっています。ここ1、2年のアメリカの大統領選挙やヨーロッパの国政選挙での最大の焦点は「移民問題」でし

た。選挙では、デマやフェイクにもとづく「ポスト真実」の主張が横行しました。日本でも民族差別のヘイトスピーチが問題になっています。

ふじみ野市でも外国籍市民の数や比率が増え、約2%になると聞いています。

外国籍市民が人権を保障され、外国籍市民とともに生きる地域社会をつくることは、まちづくりにとっても大きな課題です。

さきのソチオリンピック・パラリンピックでは、「多様性」diversityと「社会的包摂」social inclusionが強調されていました。つぎの東京オリンピックでも同じだと思います。民族や文化の違いを認め合い、排除ではなく包摂するということです。それは現代の世界の理想であり、課題であり、すべての地域がめざすべきものです。

それぞれの個性や違いを認め合い、尊重し合い、共同していくということは、民族の間の問題だけでなく、日本国籍を持つ市民の間でも実現されなければなりません。それによって人々は自分らしく、のびのびと生きていくことができます。

だからFICECの活動は、世界の課題と直接に結んでおり、地域づくりにとって大切だと思うのです。

見送りの3振より空振りの3振 パートII 石井ナナエ

○月○日

美しく咲き誇っていた桜が茶色く変色し、悲しいほど惨めに様変わりしている。桜の1年の中で私は、「見ててよ、見てて。咲くわよ咲くわよ」と、パンパンにつぼみを膨らませ太い幹から枝先までピンクに染まる頃が1番好きだった。

しかし70歳になり1ヶ月も体調不良が続くと、色あせて無様な姿をさらけ出している今の桜が、すごくいとおしく思える。自分では後10年ぐらいは生きてFICECに行きたいと思っていたが、起き上がることさえ思うに任せない日が続くと『もしかしたらあと数日で私の人生は終わるのかもしれない』と恐れた日があった。なんとか回復して友理さんに送り迎えをしてもらいながらFICECに通えるようになった今、奇しくも色あせた桜並木を見上げ、一番惨めな姿を人目にさらしている桜の勇気にすごく感動した。桜はあと1ヶ月もすれば若い青々とした葉が芽吹くだろう。私もそんな力が欲しいと思った。

○月○日

生活相談の中でも子どものいじめ問題が一番辛い。違いを認めにくい日本でのいじめの問題は古く新しい課題である。

元気で体格も良いK君は小学校に入学するなり「フィリピン人、フィリピン人」とからかわれるようになった。友達に言い返す事もできず、学校から家に帰ると自分の鉛筆やお箸をぼきぼき折りまくって鬱憤を晴らしていると母親は心配している。

T君は生まれも育ちも国籍も日本である。2歳の時父親に捨てられFICECと関わるようになった。私たちのことを「ばあちゃん、ばあちゃん」となつて、明るくやさしい子に育った。ところが小学4年生の頃、母親が外国人だと言うことで同級生からいじめられるようになり、精神が病んで5年も入院している。病院に面会に行ってきたが、あまりに変わってしまった彼の姿に最初は声も出なかった。

2歳のMちゃんは、夜中に突然起き上がり「怖い、怖い、止めて、やめて」と泣き叫ぶようになった。保育園を訪ねると「フィリピン人ママのしつけが悪いのでMちゃんだけ特別にしつけしている」と言う。2歳の子どもが夢遊病になるほどのしつけは虐待と言えないか。

「保育園に任せているので」と何もしない市役所保育課の職員にも腹が立つ。

国際理解講座

石井ナナエ

2020年のオリパラの影響なのか、在留外国人が増えたためなのか、外国人に関係する話をして欲しいと29年度は合計32回の講師派遣依頼があった。テーマ別に分解してみると①外国人の人権・日本で暮らす外国人の実状 ②生きがい論・ボランティア論 ③地域の外国人とどう交流したら良いか等の多文化共生論・国際交流の勧め ④「一人が変われば地域が変わる、地域が変われば社会が変わる」という期待の込められたNPO論 ⑤DV被害者の実状と課題等がある。

講座の対象は行政職員、大学生、小中学校教員、高齢者、PTA役員から一般市民まで幅広く、パワーポイントを使ってFICECの活動を紹介し、新聞記事や法務省の統計などを可視化して分かり易く伝え、対象者に合わせてワークショップやゲームを取り入れて話している。ゆとり教育の時間がなくなり、小中学生と外国人が直接ふれあえる国際理解の機会がなくなったことが淋しいが、その代わりに埼玉県小中学校向け人権教育の冊子作りの多文化共生の部分に参画させてもらっている。

どのテーマでも最後に必ず話すのは「多文化共生の基本は通分ではないか」と思っている事。「 $1/3 + 1/4$ 」はそのままで計算できないが「 $4/12 + 3/12$ 」に通分すれば足し算になる。「私は中国人だから分母は3でなければいけません」、「私は日本人だから分母は4でなければいけません」と言っていたのでは、せっかく200か国以上の人が日本で暮らしているのにプラスにならない。お互いが歩み寄って初めて、「いろいろな国の人がいて良かった」と思える地域になると信じている。

一歩前に出て外国人と関わることで自分の世界も広がる。外国人と接することで感動したり驚いたり、周りのことに興味が広がったり、物事の基準を考え直したり、細かいことにくよくよしなくなったりする。FICECで体験した共に学び共に育つ感動を社会に大いにアピールしていきたい。

一人が変われば地域が変わる。地域が変われば社会が変わる。こんな実感が味わえるのも外国人との交流活動があったからこそで、常に学び続ける存在としての団体でありたいし、機会あるごとにそれを社会に話し続けたいと考えている。

「やさしい日本語」を知っていますか？

矢澤美紀

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすいよう配慮した日本語のことです。阪神・淡路大震災では、日本語も英語も十分に理解できず、必要な情報を受け取ることができない外国人がたくさんいました。そのような災害時に、外国人に情報を伝達する手段として考案されたのが「やさしい日本語」です。

その後、災害時だけでなく平時における外国人への情報提供手段としても研究されるようになりました。行政情報、生活情報、毎日のニュース（「NEWS WEB EASY」）、観光地で日本人と外国人のコミュニケーション手段として等、様々な分野で使われるようになりました。（富士見市では2015年に「家庭ごみと資源の出し方」のやさしい日本語版が作成されました）

また、「やさしい日本語」は日本人の子ども・高齢者・障がい者・ろう者の方達にとっても有効であり、「外国人のため」だけではなく、「みんなのため」のやさしい日本語と考えられるようになってきています。

ここで問題です

目の前に困っている外国人がいます。「やさしい日本語」で話してみましょ。

- ①人身事故の影響で、池袋～上福岡間は現在不通となっております。
- ②病院で妊婦と診断を受け出産予定日の確定後、〇〇課で母子健康手帳をもらってください

→事故がありました。電車は来ません。池袋駅から上福岡駅までは、電車が動きません。
→病院に行ってください。あなたの赤ちゃんが生まれる日を聞いてください。それから、市役所の〇〇課に行きます。母子健康手帳をもらいます。

解答例を載せましたが、これが正解というわけではありません。話す相手によって日本語の能力、文化習慣の知識、生活地域などが異なるため、全ての人がわかる「やさしい日本語」はありません。

対面で「やさしい日本語」を使うのであれば、相手のわかる言葉を探し、短い文で、身振りや手ぶりも使い、ゆっくり話してください。絵や写真、実物を見せて話すより分かりやすくなると思います。

「やさしい日本語」で文を書く時は、「やさしい日本語の手引き」を参考にすると良いと思います。「伝える情報をしぼる」「一つの文を短くし、簡単な構造にする」「曖昧な表現は使わない」「優先度の低い情報は削除する」など、方法や具体例を載せてあるHPが複数あります。詳しくは「やさしい日本語」「やさしい日本語の手引き」というキーワードで、調べてみてください。

最後に「やさしい(易しい)日本語」は、相手に配慮した「やさしい(優しい気持ちの)日本語」です。多くの人に「やさしい日本語」のことを知ってもらえたらと思います。

●ご寄付ありがとうございます！

いつも沢山の方たちから寄付をいただき、感謝しております。いただいた物の一部を写真でご紹介いたします。



●三芳町まちづくりフェアに参加しました

FICECの活動をパネルで展示しました



●これからのイベントのお知らせ



台湾料理教室

今話題のあの料理

- 台湾魯肉飯(ルーロ飯)
- 棒棒鶏 (ハンパウジー)
- 清炒豆苗(トーミョー炒め)
- 蕃茄炒蛋湯(トマト玉子スープ)

話題の台湾料理を家で作ってみたいと思いませんか？台湾人の講師と一緒に作って、皆で食べながら、台湾の風習と台湾の話で盛り上がりましょう。

日時 2018年 5月18日(金曜日)10時～14時
 場所 富士見市立ビアザ☆ふじみ (ふじみ野駅東口徒歩2分、交番の隣)
 費用 ¥1200円(材料費込)
 準備 エプロン、三角巾 講師 山崎友理
 申し込み tel 049-256-4290(先着20名)
 ふじみ野国際交流センター・国際サロン

●最近のFacebookから FICECに関わるひとたちが遊びに来てくれたので、一緒に写真を撮りました。



FICECの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

●FICECを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、FICECを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、FICECのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

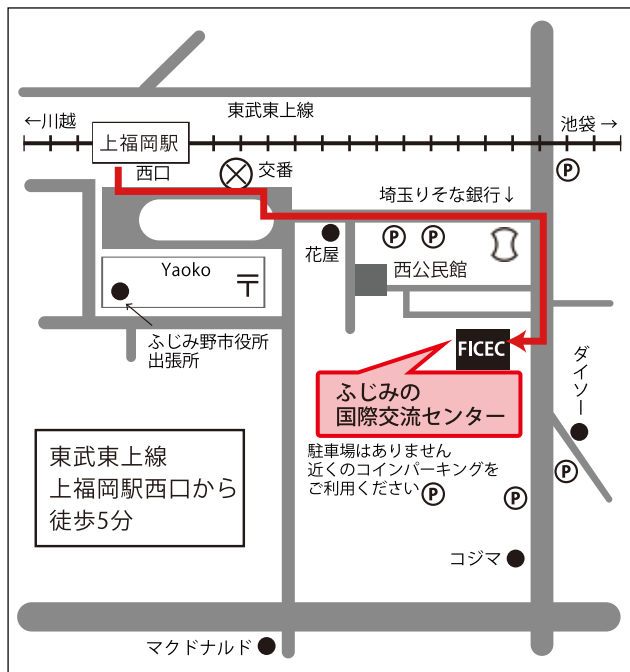
郵便振替口座: 00110-0-369511
 口座名: ふじみの国際交流センター

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00
 電話: 049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
 FICECをご紹介します。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人
ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
 TEL: 049-256-4290 FAX: 049-256-4291
 生活相談専用電話 049-269-6450

ご寄付をいただいた方々
 ご支援ありがとうございます

●2016年4月1日～2018年4月20日(順不同・敬称略)

佐藤光江、樟山直美、加藤久美子、立麻肇子、安部幸枝、金澤国勝、佐藤義治、戸塚成子、駒形一夫、神田順子、邱亜蘭、吉永、鈴木譲二、尾浦邦彦、新井良司、栗嶋三千代、村山光代、金田康好、木村不二雄、マストラ、ニーランティ、市川波穂、阿澄康子、小林暁美、湯澤直美、市川まなみ、松下敏恵、深見水季夫、本多香、竹内直江、田中つや子、中山明子、上島直美、矢澤美紀、寺村壁如、新井順子、森田信子、木村澄江、松村芳枝、石塚雄康、木場ひろみ、安銀柱、江科、太田原裕、岩田愛子、伊藤真弓、李李銘、坪田幹男、小熊一雄、粕谷光宏、中村禎作、野澤弘子、市川いずみ、金子佐記子、島田道子、新井洋子、佐藤裕悦、八重樫紀久枝、大室昭浩、仲野谷美恵、星野秋梅、小林久美、鄭玄淑、石井ナナエ、岩田仁、長谷川正江、小熊千寿子、穴沢エミリン、山畑博子、荒田光男、山崎友理、佐竹裕子、山根健吾、(株)美好、東入間地区遊技業防犯協力会、かめのり財団、一食推進委員会、朝日子どもの貧困助成事業、(株)吉岡

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は、税金の優遇を受けることができます。

ふじみの国際交流センター

サービス案内

外国人	国際理解教育	3,000円+交通費+事務費
ゲスト派遣	外国料理教室	5,000円(材料費別途)
日本人	多文化共生講座	20,000円+交通費
講師派遣	ボランティア講座	(活動運営のためご協力ください)
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	内容・予算に応じて相談
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作	
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4 2,000円/ページ
	その他文書	A4 3,000円/ページ
通訳	半日5,000円+交通費	
見学・研修(資料代として)		1,000円/人、日

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、生活相談・外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。